

# マンガを利用した日本語教育

## －日本語学習者の「マンガの読み」の傾向－

服部真子\*

---

### 目次

---

1. はじめに
  2. 先行研究
  3. 調査
    - 3-1 目的
    - 3-2 対象者と期間
    - 3-3 使用漫画
    - 3-4 方法
  4. 結果と考察
  5. まとめ
  6. 今後の課題
- 

## 1. はじめに

現在、日本のポップカルチャー（アニメ・マンガ・ドラマなど）は世界から注目されている。日本国内でも国家戦略の一環として発展させようと国会議事や各省庁、産業界が連携する「ポップカルチャー政策フォーラム」が設立された（『中日新聞』2006.5.18.朝刊）。また、2006年度の日本語教育学会春季大会のシンポジウムでは、「映画・アニメ・マンガ－日本語教育の映像素材－」が取り上げられ、2006年度8月にアメリカのニューヨークで行われた日本語教育研究大会でも、マンガ・アニメを扱った発表も数多くされていたことから、現在ポップカルチャーに関心が集まってい

---

\* 南山大学大学院 人間文化研究科 言語科学専攻

ることが窺える。ポップカルチャーに興味を持ち、日本語の勉強を始める学習者も少なくない。実際に、筆者が勤務している日本語教育機関でも多くの学習者が日本のポップカルチャー（アニメ・マンガ）に興味を持っており、日本語でマンガが読めるようになることを目的としている学習者も多い。

しかしながら、日本語教育ではまだ十分な対応が出来ていないのではないだろうか。現在の日本語教育では、様々な種類のテキストが出版され、日本語教育機関では生教材の使用と比べるとテキスト中心の授業が行われているようである。学習者が生教材への関心が非常に高いことは、生教材を利用した授業からも窺える。近藤（2005・2006）の2冊の小説でインフォメーションギャップを利用して行った授業後、クラス全体の1人を除き全員が自分の未読の本を自主的に読んだという結果がでた。もともとマンガに興味がある日本語学習者にマンガを取り入れた授業をすることにより、マンガ以外の生教材を使う以上の効果も期待できよう。

川上（1997）では、日本教育学会の第56回大会の谷口氏の発表を報告している。マンガが学習者に「影響力があるにもかかわらず、これまで学習面で十分対応しこなかった（6頁）」ことを指摘している。『日本語ジャーナル』では、2003年4月号から2005年3月号まで、日本語学習者向けにマンガで会話の表現を学習する教材を連載していた。これが2006年10月に『マンガで学ぶ日本語の会話術』という一冊の本になり、教材として出版された。その他最近では、マンガで慣用句や擬音語・擬態語を学習したり、ウェブサイト（e-Japan 国立日本語研究の「日本語楽しもう」など）を利用したりして、学習することもできる。しかし、筆者の知る限りでは、マンガの授業をコースの中に取り入れている教育機関はまだ少ない。そこで、日本語学習者にストーリーマンガを取り入れた授業を試みた。その中では、ストーリーマンガの読解作業中に、誤解釈と判断されるものが多く見られたので、ストーリーマンガを読んだ後に行った話し合いと授業内の学習者の発言から、学習者の解釈過程を報告し、その要因について考察する。

## 2. 先行研究

館岡（2003）は、小説の読解授業における協働的学習で、「話し合いを通じて多角的視点が持て、読みに広がりが出てきた。（78頁）」、「話し合いを通じて意見が変わり読みが深まるだけでなく、楽しい授業環境を創出することができた。（79頁）」と述べている。また、秋田（2000）でも、協働学習により、異なる視点によつ

て考えの葛藤や精緻化や明確化が生じて理解が深まることにより、一人では考えつかない新たなものがコミュニケーションの課程を通して出てくるなどの効果について述べている。これらのことから、学習者がそれぞれ読んだ後、協働学習で内容やタスクを行うことに効果があると考えられる。

マンガというと娯楽の一つと受け止められてしまう傾向があるが、樺島（1979）の日常会話とマンガ週刊誌との語彙調査では、マンガの吹き出しの言葉は日常における談話語と品詞比率においてほぼ同じであるという結果が出ている。また、因（2001）は、小説や新聞記事、ドラマ、ニュースなどは上級コースの学習者にのみ利用可能であるが、マンガは初級から上級まで使い方によってはどのレベルにも利用ができるという有効性があると述べている。谷川（1997）も「文章資料より情報が多く、生徒に合った速度で読めるという点もマンガの魅力である」と論じている。また、中澤（2002）は、マンガは文章よりも長期の記憶保持に有効であると示している。このようなことからマンガを授業に取り入れることは効果的であると考えられる。

2006年8月にアメリカのニューヨークで行われた日本語教育研究大会の「Approaches to Japanese animation in the classroom」の口頭発表者の一人Aoyagi氏は、授業で使用する教材について次のようなエピソードを述べた。「見たいアニメ一本持ってくるよう」に言ったところ、学習者はそれぞれ好きなアニメを持ってきたため、授業でどれを見るか決められなくなってしまった。そのため、今流行しているものは避け、少し前に流行していたものを選ぶほうがいと結論づけた。相澤（2003）では、70年80年90年代から一冊ずつ少女マンガを選び、登場人物のセリフ、女性的とされる終助詞の使用頻度を調査し、年々ことばに男女差がなくなって来ており、ことばがその時代や社会を反映していると述べている。Aoyagiの扱ったものはアニメで相澤はマンガであるが、現在の社会を反映するためには、できるだけ新しいマンガを選択すべきであることが窺える。また、因(2004)では、授業内の教材として使用するマンガの条件①現実的な設定の作品、②多様な人物関係を含む作品、③考察や議論を行うための話題を含む作品をあげ、これらのことを考慮に入れ、使用マンガを選ぶ必要がある。

中澤（2002）は、日本人小学校5年生に行った調査で「マンガは一目見ることによって状況などが理解でき、言葉では表現できない内容も視覚的に把握できるという分かり易さがある（14頁）」と述べている。しかしながら東山（2003）では、日本の漫画の身ぶりを表す絵を見せてアメリカ人に意味を答えてもらったが、アメリカ人は答えられないものがあつた。このことよりマンガは分かり易さがあると考えられるが、必ずしも一目見ることによって日本語学習者が妥当な絵の解釈ができるというわけではないことが示唆される。

また、因 (2004) は、日本語学習者にストーリーマンガを使用した研究で、「音声の変化をかなり忠実に反映するもの (例: ったく、しりたかない)、独特の態度を暗示するもの (例: そーゆー、おねーちゃん) などの非標準的表現について、そのニュアンスを推測することはもちろん、標準的表記を推測することも、母語話者が思う以上に難しい (7 頁)」と述べている。日本語学習者にとって推測が難しい非標準的表現は、どのように解釈されていくのだろうか。このようにマンガを扱った研究もされているが、対象者は日本人学習者より日本人のほうが多く、日本語学習者を対象にしたマンガ研究をしていく必要がある。

### 3. 調査

#### 3-1 目的

本調査は、日本語学習者がマンガを読むときに、どのように解釈しているのかがわかる部分を学習者同士の会話データと授業内の学習者の発言から取り出し考察を行い、学習者のマンガ読解の過程や解釈の仕方を探ることを目的とする。

#### 3-2 対象者と期間

日本国愛知県にある日本語学校の選択クラスー日本文化「マンガ」を受講した日本語学習者を対象に行った。この学校のクラスは、熟達度別に分かれており、週20時間のクラス授業と4時間の選択授業で構成されている。選択授業は通常、週1回50分で、学期中に全8回行われ、調査を行った選択授業もこれに該当する。

選択クラスー日本語「マンガ」は、中上級クラスと上級クラスの就学生対象に行った。中上級のクラス授業では『ニューアプローチ中上級日本語完成版』(2002)日本語研究社・教材開発室を使用し、上級クラスでは『国境を越えて』(2001)新曜社を使用していた。

選択クラスー日本語「マンガ」が行われた期間と学習者とその各国籍は下記の通りである。

2005年7月—9月(5名) : 台湾3名、カナダ・スウェーデン各1名

2006年1月—3月(34名) : 台湾13名、アメリカ10名、ドイツ3名、イタリア・フランス各2名、スウェーデン・スイス・ペルー・中国各1名

尚、会話データは、2006年1月－3月の間に行われた『電車男』第1巻の第1話－第4話を扱った授業内の協働学習中のものである。

### 3-3 使用漫画

先行研究で述べた相澤（2003）の結果から、マンガは時代を反映しているので、できるだけ新しいものを使用したほうが良いことと先に述べた因（2004）の教材として使用するマンガの条件も考慮し、『電車男』1-3巻を使用した。『電車男』は、4コママンガではないストーリーマンガである。ストーリーマンガを使用した理由は、学習者が話題にする「マンガ」は、4コママンガよりもストーリーマンガについてのことがはるかに多いためである。また『電車男』は、本調査をした授業開始時に、下に記載したものからもわかるように、世間で話題になっており、これもこのマンガを選んだ理由の一つである。

- ・映画「電車男」2006年6月4日公開
- ・舞台「電車男」が2005年8月5日-27日公演
- ・本『電車男』2004年10月出版
- ・マンガ『電車男』第1、2巻が2005年7月以前に発売、第3巻が授業期間内に発売
- ・テレビで「電車男」について、取り上げている番組が多数

このマンガ『電車男』は、2チャンネルというインターネットの掲示板に書かれたものを本で出版され、その後マンガになったものである。実話がマンガになったということは、学習者にとって好印象を与えたようである。本調査の会話データの中で、学習者同士のマンガ『電車男』についての会話から、「事実だから本当に面白いと思う」「事実でなければ面白くない」という意見が出されていた。

### 3-4 方法

授業は、下記のように行った。

<授業前>

- ①学習者は『電車男』4話ずつ各自読み、授業に参加

<授業内>

- ②4、5名のグループに分かれ、読んできた内容や疑問について話し合う（10分）
- ③教師が用意した質問について話し合う（15分）
- ④グループごとに発表し、答えが出なければクラス内で話し合う（15分）
- ⑤学習者からの質問を受け付け、クラス全体で考える。（10分）

本調査の会話データの部分は、②の話し合い（『電車男』第1話—第4話の授業の会話）を録音したものである。そこから、学習者の解釈過程がわかる場面を抽出し、考察を行った。

## 4. 結果と考察

本調査の会話データにおいて、学習者がマンガを読み進める過程で日本語母語話者とは異なる解釈を示していた点がいくつか見られた。以下に、その事例を6つ挙げ考察する。（誤用は訂正せずに、学習者の発話をそのまま記述する。また、絵は著作権の関係で記載しない。）

### <事例1>

質問（教師）：26頁「くん くん くん」とは何ですか。（『電車男』第1巻）

学習者A：ちょっと笑う

学習者B：笑う？

学習者A：笑うと思う。反対？泣く？笑う？ くん くん

学習者C：これはちょっと笑う

学習者D：一人で くん くん くん

学習者A：どういう意味ですか？

学習者E：ここに絵があります。

学習者A：26頁 くん くん くん

学習者E：わかる？

学習者A：あ～。

学習者E：もし一生懸命に読んでいると クンクンという音がでる

学習者A：哀れなかんじで

学習者B：手紙は女の人からもらった、うれしい うれしい

事例1は、主人公電車男が恋心を持っているエルメスという女性からの手紙を読んでいる場面で、擬態語「くんくんくん」の解釈をめぐる会話の抜粋である。『広辞苑第5版』が入っている電子辞書で「くんくんくん」を調べてみると、①匂いを嗅ぐために小刻みに息を吸う音、②犬が甘えたり何事かを訴えたりする弱い鳴き声、と書かれている。日本語母語話者であれば、①の理解をするであろう。しかしながら、日本語

学習者は、「くんくん」を「電車男が一生懸命に手紙を読んでいる」と解釈した。日本語学習者は「くんくん」という擬態語の意味がわからなかったため、絵を助けにしてマンガの内容を解釈しようとしていることが窺える。しかしながら、絵から正しい内容を読み取ることができなかった。

服部（2006）でも、『電車男』を使用した授業の報告がされている。そこでも、学習者が擬態語についての誤解釈があった。電車男が携帯電話で話している絵の横に「ペコペコ」と表示されている。通常「何度も何度も頭を下げている」と解釈するのが妥当であると考えられるところを学習者は「ペコペコ」を「お腹が空いている音」と解釈した。このように解釈した理由は、「ペコペコ」（お腹が空いている）が既習語彙であったからということが、学習者の発言からわかった。また、電車男が美容院で汗を垂らしながら大きな口をあけている絵に「カッコよく・・・とにかくカッコよくしてください！」と、セリフがついている場面で、通常「気合を入れて、大きな声で言っている」と解釈するのが妥当であると考えられる。しかしながら、学習者は、そこまでの話で描かれていた電車男の頼りない性格から「はにかんだ言い方や弱々しい言い方をしている」と解釈していたことがわかった。このように解釈したことから、すべての場合においてマンガの絵が助けとなって、視覚的に把握できるというわけではないことを報告している。本調査のデータの事例1もこれと同様であると考えられることができる。

## <事例2>

質問（教師）：10頁「タダじゃおかねぞ！」とはどういう意味ですか。（『電車男』第1巻）

学習者F：「ただじゃおかねぞ」とはどういう意味ですか。

学習者G：ただって無料？

学習者H：うん、それで あの おかねーは たぶん おかない。乱暴な男が「ない」と言っているとき、だいたい 「ねえー」「そんなことねーぞ」とか。「ない」の意味だから、ただじゃない かもしれない。

学習者D：これは ただ

学習者H：本当かどうかわからない。タダじゃおかない。

学習者G：19頁

学習者H：あーあー たぶん 全部の電話使ったら ただじゃおかねーぞ ただでおく。  
ただじゃおかねーぞ。

学習者F：ただって だけ。

学習者H：ただ 無料 お金が かからない アー前のは・・・

学習者F：それかー 携帯電話を使うとお金を使う

事例 2 では、「おやじ」が怒っている場面が描かれており、「携帯使うな！使ったら タダじゃ おかねエぞ！」と吹き出しに書かれている。通常、「使ったらタダじゃ おかねエぞ！」は、「携帯を使ったら、そのまま何もなくなることが過ぎることはない」つまり「(携帯を) 使うな！」ということの意味している。しかしながら、学習者は、「ただ」の部分に注目して、「ただ＝だけ」や「ただ＝無料」と解釈し、そこから「お金がかからない」との解釈を導き出していることが窺える。6 グループすべてがはっきりとした答えを出さずに、次の問題に取り掛かってしまっていた。「おやじ」が怒っている状況で、親切に「携帯使ったら電話料金がかかりますよ」と言うはずがないと考えるところまでは、学習者でもできるであろうと考えられる。

学習者が正しく内容を解釈するためには、事例 2 の学習者 H が発言している「ねエ」を「ない」に変化させ、「携帯を使ったら、タダではおかない」とする必要を知っておかなければならない。しかし、それだけでなく、そこから「只では済まない」まで変えなければ辞書で調べることができない。電子辞書で「ただで」まで入力すれば、選択肢に「[慣] 只では済まない」と出てくる。学習者は、教師からの質問以外の会話データの中で、「マンガは辞書で調べられない言葉が多い、例えば、このやろう」と発言している。「このやろう」も「野郎」だけであれば、6 番目の意味として『男をののしている語。代名詞句にも用いる。「このー」「ーこのごろ顔を見ないじゃないか』と載っているが、「この」から入力しても「このやろう」は出てこない。このように、学習者が自力で見つけ出すことができない言葉がマンガにはあることがわかった。

その他、授業内の学習者の発言からの発言で誤解釈のわかるものが出てきた箇所の考察を行っていく。

### <事例 3 >

質問 (教師) : 「ちょ……ちょっとすみません……」は、誰に言った言葉ですか。

「あとで～」は、誰に言った言葉ですか。

(エルメスと電車男が電話で話して場面で)

- ① 「ちょっとつ～ッ、お風呂沸いているわよオ！入らないのオ？」
- ② 「ちょ……ちょっと すみません……」
- ③ 「あとで～」

(『電車男』第1巻 57頁)

質問は、上記のセリフが吹き出しに分かれて書かれている場面に対するものである。

学習者Iが、「ちょ…ちょっとすみません」は、エルメスから電車男に言った言葉で、「あとで～」は、エルメスから母親に言った言葉と答えた。それを受けて、学習者Jが「①の言葉が、エルメスと電車男以外の言葉であることはわかるが、どうして①の言葉がエルメスの父親などでなく母親からであるのかというのがわかるのか」という質問が出た。正しく解釈できた学習者Iは、「①にお風呂がわいているわよオと、女の人が使う言葉があるから」と発言をした。この学習者同士の発言から、この学習者Jが終助詞に注目をしていなかったために、正しく読み取ることができなかったことが窺える。因(2003)でも、マンガの会話は典型的な特徴が誇張されがちで実際の会話とは異なるかもしれないが、「ジェンダー表現で話し手の人格の特徴や態度が表される(17頁)」と述べている。

日本語学習者が、マンガを読むときには男性語・女性語に注目して、その話し手の人格の特徴や態度を読み取ることも必要であると言えるだろう。今回、学習者Jは「①の言葉がエルメスと電車男以外のものである」ということは読み取ることができていたが、マンガには話している人物が描かれていない場合もあるので、誰が言った言葉かを考えながら読む必要がある。

#### <事例4>

質問(教師)：116頁「きゅッ」とは、どれぐらいの強さで握っていますか。(『電車男』第1巻)

この場面では、「きゅッ」という擬態語と一緒に、エルメスが電車男の手を掴む絵が描かれている。しかし、その絵を見ただけでは、学習者は「きゅッ」の強さが、どのぐらいなのかを想像することができなかった。中里(2005)では、日本のオノマトペには清音(及び半濁音)と濁音とで対応するものが数多くあると述べており、その対応関係を紹介している。対応関係は通りである。

清音＝弱い・軽い・高い・鋭い・細い・澄んだ・・・  
濁音＝強い・重い・低い・鈍い・太い・濁った・・・ (8頁)

また、オノマトペのパターンについては、

オノマトペはいくつかのパターンがあり、創作的なオノマトペであっても多くがその枠内におさまると考えられている。語基を[A]とした場合には、[Aッ][Aーッ][Aン]などの語形が、語基を[AB]とした場合には[ABッ][ABン][ABリ][ABAB]などの語形があり、一つの語基を中心に変形パターンのおノマトペがいくつか存在するものが多い。(中里2005：8-9頁)

と述べている。学習者が、このようなオノマトペの規則を知っていれば、「きゅッ」と「ぎゅッ」の違いがわかり、マンガの筆者が伝えたいことをより正しく解釈することができると考えられる。そのため、オノマトペの規則も知る必要性がある。実際に、学習者にオノマトペの清音と濁音の規則を伝えた後、壁に頭をぶつける絵が描かれている場面で、「ゴン」という擬音語が出てきた。学習者に意味を尋ねたところ、「強く頭をぶつけたときに出る音」と答えることができていた。

#### < 事例 5 >

質問（教師）：97頁 何人で髪を切っていますか。（『電車男』第1巻）

電車男が美容院で髪の毛を切っている絵が描かれている場面で、上記のような質問をした。この絵は、真ん中に電車男が描かれており、左右と後ろの3箇所に電車男の髪を切っている美容師が描かれている。ほとんどの学習者は1人の美容師が髪の毛を切っていると答えることができたが、学習者Kは、この絵を見て3人の美容師が電車男の髪を切っていると答えた。このことから、学習者Kはこの美容師が左右前後に動きながら切っている動きを表すために、3箇所に同じ美容師が描かれている絵を正しく解釈できなかったことがわかる。夏目(1997)や日下(2002)が述べているように、マンガには「マンガの文法」というものがあり、吹き出しの形によって伝えるものが違い、背景の模様によって異なったムードを表し、オノマトペも絵のように描かれることによって伝えるものが変わってくる。

小さい頃からマンガを読んでいる人たちは知らぬ間に「マンガの文法」を理解してマンガを読んでいるが、日本のマンガを読んだことがない、或いはこの「マンガの文法」を理解していない日本語学習者は、マンガの伝えようとしていることを正しく解釈できていないことが多いのではないだろうか。日本語母語話者であっても、この「マンガ文法」を知らなければ、必ずしもマンガの筆者が意図する解釈をすることができないであろう。「マンガを読んで楽しみたい」「マンガが読めるようになりたい」と思うのであるならば、最低限のマンガを読み進めていくための規則「マンガの文法」というものを知っておく必要がありそうである。

#### < 事例 6 >

質問（教師）：144頁 「むく・・・」という音は、どんな音ですか。（『電車男』第1巻）

この質問は、電車男の肩の辺りから斜め上に向かって「むく・・・」と描かれてい

る場面に対する質問である。この場面は、コンピューターのスクリーンの向こうにいる仲間が電車男にいろいろアドバイスをくれたので、電車男はキーボードに寄りかかり「本当に ありがとう…」感謝をしている絵が、同じ頁の上に描かれている。その後、「むく」と立ち上がった絵が描かれている。よってこの場面では、起き上がるときの擬態語の「むく」であると考えるのが妥当な解釈であろう。しかしながら、学習者はこの質問に対して「む・む・む・むっとする」と答えた。「むっとする」と答えた理由を学習者に質問したところ、「むく」の「む」と「むっとする」の「む」が一緒だからという答えが返ってきた。このことから学習者が、擬態語の「むく」の意味を絵からでなく、音から連想し、学習者の既習のものの中から答えを見つけ出そうとしていることがわかる。

この「むく…」と描かれている絵の電車男の背景には、波紋のようなものが2本描かれている。これは、体を起こしたということを表す線であり、事例5で述べた「マンガの文法」の一部であると考えられる。この2本の線が学習者の目に入っていたかは定かではないが、このみんなに感謝をしている場面で「むっとする」という不快感を表すことが、出てくるのが不適切であると学習者は気づくべきである。また、解釈のヒントとなる前後の絵や背景の線を使用せず、音を手がかりにしたため妥当な解釈をすることができなかったことが、この事例からわかった。

## 5. まとめ

本調査のデータから、以下のことが明らかになった。

- ・マンガを理解するのは、擬音語・擬態語の知識だけでなく、その場面から総合的に意味を解釈する力も必要であること（事例1）
- ・マンガは音声をそのまま文字にしているため、ことばの変化の仕方の知識が必要であること（事例2）
- ・マンガに出てくる未習語を絵から理解できない場合は、辞書でどのように調べたらよいのかという知識も必要であること（事例2）
- ・女ことば、男ことばを含む終助詞にも注目してマンガを読み進めていく必要があること（事例3）
- ・擬音語・擬態語の規則を知っていれば、たとえそのことが未習語彙であったとしても、推測できること（事例4）
- ・マンガには「マンガの文法」というものがあり、その「マンガの文法」を知らないと

正しく解釈できないため、マンガを読むには必要であること（事例 5）

- ・ 学習者はわからない擬音語・擬態語が出てきた場合、その音から推測すること（事例 6）

以上のように、日本語学習者がマンガを読むときには、いろいろなストラテジーを使っていることが明らかになってきた。また、マンガを読むときには特別な「マンガ読解ストラテジー」が必要であることもわかった。

## 6. 今後の課題

今回の調査は質的調査であったが、調査2回目のクラスは学習者の人数が多かったため、中級・上級の学習者が同じ授業に入ってしまった。中上級クラスと上級クラスと分けて調査を行えば、レベルによるマンガ読解における差異を分析することができるのではないかと考えられる。また、年齢や性別、日本語学習歴や日本語のマンガを読んでいる年数、テレビやドラマをよく見る学習者と見ない学習者、日本人とよく会話をする学習者とそうでない学習者など、学習者の細かい背景なども見ていけば、何らかの傾向が見えてくるのではないかと考えられるので、これから見ていきたいと考えている。

協働学習を行ってみて、筆者が思っている以上に学習者同士が助け合い、内容や自分の答えの理由について話し合い、考えていた。この成果から、今後の授業内で行う調査にも協働学習を行い、学習者の考えや読み方を探っていききたいと考えている。

読解ストラテジー研究は今までされているが、日本語学習者がマンガをどのように読んでいるのかという「マンガ読解ストラテジー」は、筆者の知る限りではまだ研究がされていない。今後は、日本語学習者の日本語を学習の動機の一つとなっているマンガを自分で読んでいけるようにするため、日本語学習者のための「マンガ読解ストラテジー」を考察していきたいと考えている。

## 【参考文献】

- 相澤真波(2003)「少女マンガにみる女ことば」『明海日本語』第8号85-99頁
- 秋田喜代子(2000)『子どもをはぐむ授業作り：知の創造へ』岩波書店
- 樺島忠夫(1979)『日本語のスタイルブック』大修館書店
- 館岡洋子(2003)「読解授業における協働的学習」『東海大学紀要留学生教育センター』第23号 67-83頁
- 金子他(2006)『マンガで学ぶ日本語会話術』アルク
- 川上幸子(1997)「漫画を活用した授業づくり」『内外教育』4875号6-7頁
- 小柳他(2002)『ニューアプローチ 中上級日本語 完成編』日本語研究社 教材開発室
- 近藤有美 (2005) 「インフォメーション・ギャップを利用した上級読解授業の試み」『日本語教育学会 平成17年度日本語教育学会第3回研究集会予稿集』25-28頁
- \_\_\_\_\_ (2006) 「学習者の能動的参加を目指した上級読解授業の試み」『日本語教育研究』51号 言語文化研究所 43-56頁
- 中澤 潤(2002)「学習マンガ教材の効果に及ぼすマンガ読解力の影響」『千葉大学教育実践研究』 第9号13-23頁 千葉大学教育学部附属教育実践研究指導センター
- 夏目房之介(1997)『マンガはなぜ面白いのか その表現と文法』NHKライブラリー
- 因 京子(2001)「マンガを用いた日本語教育の視点と方法」『韓日言語文化研究』第2巻 1号 131 150頁 九州大学留学生センター
- \_\_\_\_\_ (2003) 「マンガに見るジェンダー表現の機能」『「日本語とジェンダー」第3号 日本語ジェンダー学会』17-36頁
- \_\_\_\_\_ (2004) 「マンガを用いた日本語教育・日本文化教育の可能性」『日本語日本文化研修生教育改善研究会』109-113頁 金沢大学留学生センター
- 東山安子(2003)「身振り言語の輸出－日本の漫画の身ぶり表現はアメリカ人に理解されるのか－」『日本語学』通巻271号46-55頁
- 服部真子(2006)「(実践報告)日本語教育でストーリーマンガを扱った読解授業の試み－中上級のクラスにおいて－」2006年度日本語教育学会第3回研究集会予稿集
- 原 秀則(2005)『電車男』1～3巻 小学館
- 日下みどり(2002)『漫画学入門』中国書店
- 『「ポップカルチャー政策フォーラム」が設立された』『中日新聞』2006年5月18日
- 山本富美子(2001)『国境を越えて』新曜社

## 要 旨

This research reports on the construction process of reading Manga for Japanese learners as a second language, and considers in factors. Learners read a story Manga based, not a four-frame comic strip. Misconstruction of reading emerged from learners' discussion and comments of the Manga in the class. As suggestion Japanese learners are expected to have the following abilities and knowledge when reading Manga and for contents understanding (1) Ability to understand the meaning of the situation, not only the knowledge of onomatopoeia and mimetic words. (2) Knowledge of variation of speech form. (3) Knowledge of using dictionary when learners do not understand the unlearned words from pictures. (4) It is important to pay attention to the ending of words that are expression of females or males. (5) Basic rule of onomatopoeia and mimetic words. (6) Grammatical Knowledge of Manga.

キーワード：マンガ、読解、解釈、知識、協働学習、マンガの文法

투 고 : 2006. 11. 30  
1차 심사 : 2006. 12. 9  
2차 심사 : 2006. 12. 30

住 所 : (446-0001) 愛知県安城市里町愚通山1番地10

電 話 : 0566-97-0242

e-mail : shinkohattori@hotmail.com